

## せん定技術検討会を行いました！（Vol.13 令和6年12月）

朝方に氷点下となる日が続くようになり、場内の「なし」や「かき」は落葉して冬の装いとなってきました。いよいよ、果樹栽培における重要な作業「せん定」の季節を迎えます。

「せん定」が本格的に始まる前に、伊那園芸技術振興委員会では指導者を対象とした「せん定技術検討会」を開催しました。

「せん定」は、ノコギリやハサミを使って「樹形を作る」作業です。「せん定」をせずに放置すると、多くの枝が発生して枝葉が茂り、過剰に花が着くことにより樹が弱ってしまうことがあります。

「せん定」の目的としては、①栽培管理が効率的に行える樹形づくり、②空いたスペースへの枝の誘導による収量性の向上、③樹高を下げることによる作業性や安全性の改善、④枝が重ならないようにして通風や採光を確保するとともに、散布した農薬のかかりを良くすることで品質の揃った果実を作ることなどが挙げられます。

一方で、「せん定」作業は品種ごとに異なる樹体特性の理解や、周辺の樹とのバランスを考慮するなど、習熟するまでに多くの経験と時間を要します。そこで、試験場では「せん定」の仕方を単純化できるジョイント栽培の技術開発に取り組んでいます。随時、情報を発信してまいります。



なしのせん定技術検討（場内）



市田柿のせん定技術検討（現地）